

# 北海道浮魚ニュース

平成19(2007)年度6号 (通巻 No.239)

2007年 7月2日

北海道立水産試験場

ホームページ : [http://www.fishexp.pref.hokkaido.jp/ukiuo/uki\\_index.htm](http://www.fishexp.pref.hokkaido.jp/ukiuo/uki_index.htm)

## 道南太平洋スルメイカ北上期調査結果

6月末の分布密度は全体的に高く、魚体サイズは昨年より大きい。

函館水試調査船金星丸で実施したスルメイカ調査の結果をお知らせします。

- ・調査期間：2007年6月25日～6月29日
- ・調査海域：道南太平洋（渡島半島沖～日高沖～下北半島沖）
- ・調査船：金星丸（151t。イカ釣機5台、イカ用集魚灯20灯装備）

漁獲調査は4地点（St.1、8、15、16）で実施し、昨年（2006年6月19～23日）のデータと比較しました。

### 1. 水温分布

各調査点の表層水温は15.2～18.2（昨年11.4～14.8）で昨年に比べ2.4～5.9高く、水深50m層の水温は7.7～14.3（昨年4.9～9.7）で昨年に比べ2.3～6.8高い値でした（図1、2）。漁獲調査を行った4点の水温は、表層・50m層ともに、全ての調査点で2002年以降の平均値を1.1～3.7上回る高い値を示しました。

### 2. 分布密度

各漁獲調査点でのCPUE（2連式イカ釣機1台1時間当たりの漁獲尾数）は4.5～24.2（昨年0～6.1）で、全ての調査点において2002

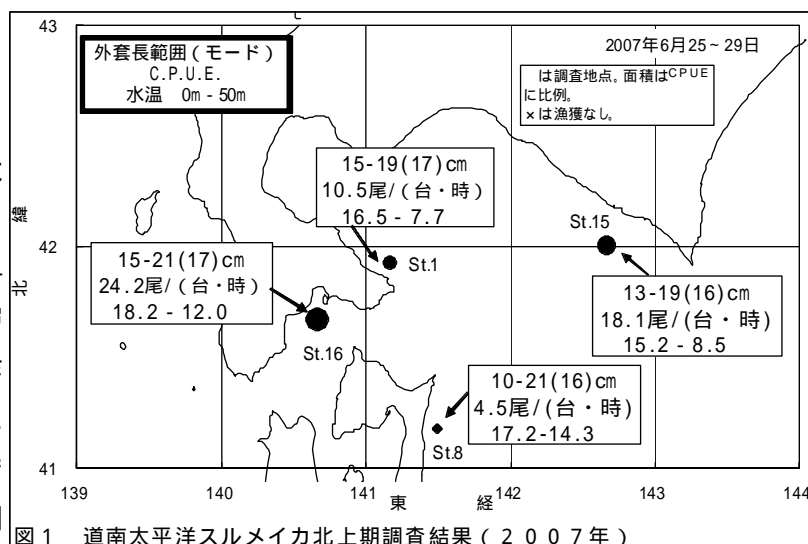


図1 道南太平洋スルメイカ北上期調査結果（2007年）

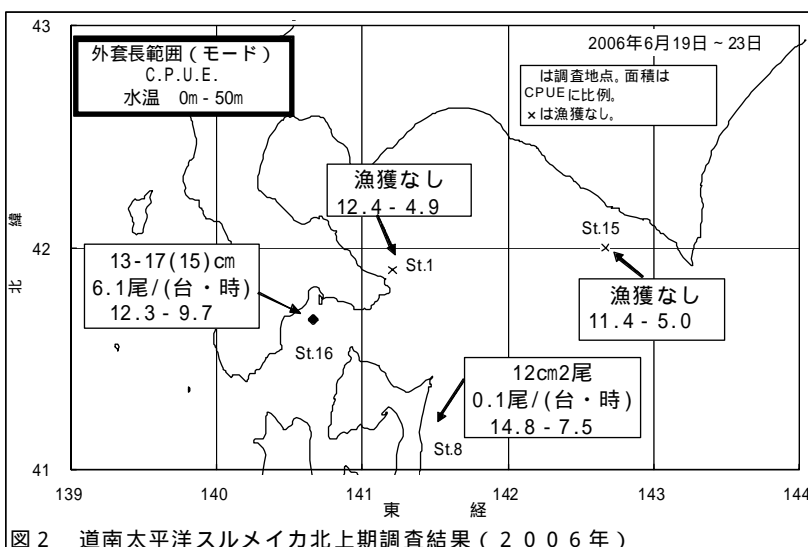


図2 道南太平洋スルメイカ北上期調査結果（2006年）

表1 道南太平洋スルメイカ北上期調査時のCPUEと外套長の経年変化

	2002(H14) 6/24-6/28	2003(H15) 6/23-6/27	2004(H16) 6/21-6/25	2005(H17) 6/20-6/24	2006(H18) 6/19-6/23	2007(H19) 6/25-6/29
St.1(恵山沖)CPUE	0.5	2.2	4.3	0.1	0	10.5
St.8(下北半島東沖)CPUE	2.3	1.3	-	0	0.1	4.5
St.15(浦河沖)CPUE	10.4	10.2	16.9	0	0	18.1
St.16(函館沖)CPUE	4.3	-	-	3.9	6.1	24.2
平均CPUE(尾/台・時間)	4.4	4.6	10.6	1.0	1.6	14.3
外套長の範囲(cm)	13-21	10-20	13-21	12-17	12-17	10-21
外套長モードの範囲(cm)	15-17	14-17	18	14	15	16-17

年以降で最も高い値を示しました。平均 CPUE は 14.3 (昨年 1.6) でした (表 1)。

### 3. スルメイカの大きさ

調査海域全体でのスルメイカの外套長 (胴長) の範囲は 10 ~ 21cm (昨年 12 ~ 17cm)、海域全体のモード (最も多く漁獲されたイカの大きさ) は 17cm (昨年 15cm) で、全体的に昨年より大型でした (図 3)。各調査点のモードは 16cm と 17cm にありました (図 1、表 1)。

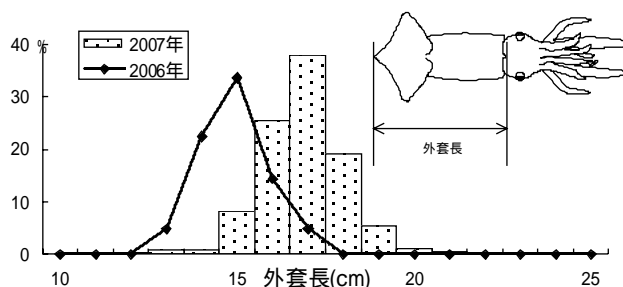


図3 調査海域全体の外套長組成

### 4. 標識放流

6月27日夜に恵山沖 St.1 で行った漁獲調査で、合計 216 尾のスルメイカ標識放流を行いました (図 4)。標識のついたイカを発見されましたら、函館水産試験場調査研究部までご一報下さい。その際、以下のデータについて、可能な範囲で構いませんのでご連絡願います。

- 再捕者の方の氏名・船名と住所または連絡先
- タグの形状と番号
- 再捕日時
- 再捕場所 (分かれば緯度経度)
- 再捕の方法 (釣り、定置網、等)
- 再捕個体の外套長
- 再捕個体の体重
- 再捕個体の性別

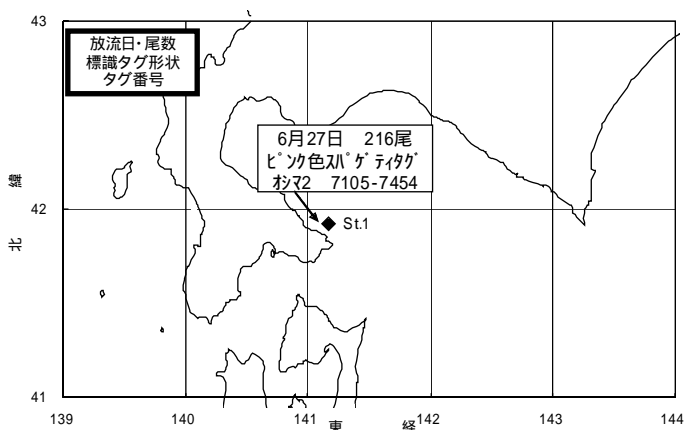


図4 2007年道南太平洋スルメイカ標識放流地点

(文責：函館水産試験場資源管理部、TEL：0138-57-5997 直通、FAX：0138-57-5991)